

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 10 月 20 日
事業所名	グループホームカリヨンの郷「新千秋」
事業所番号	2 3 7 5 6 0 1 6 5 1
記入者名	職名：管理者 氏名：福田宜史
連絡先電話番号	0 5 6 7 - 9 5 - 6 6 2 1

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「カリヨンの郷」という名前の由来、基本方針からも地域に根付いた法人独自の理念を柱にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カリヨンの郷の理念を基に、定期ミーティング、日々の申し送り、研修で得た事などを通じて理念の実践に向け取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「カリヨンの郷」という名前の由来を多くの方から聞かれたり、相談時や入居時にわかりやすく説明するとともに、パンフレット、玄関への掲示を行うことで、理念を理解していただけるように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物、畑仕事等に出かけることで挨拶など気軽に声をかけ合っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣児童館、小学校、地域包括支援センター、個人ボランティアや団体ボランティアとの交流が開設当初より行っており、今後も地域との交流に積極的に努めていく。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターによる「いきいき元気倶楽部」を同内で開催していることで、いろいろな学習会を通じながらグループホームについても意識していただける環境にある。また、社会福祉士等の実習受入や小・中学生の職業体験やボランティアの受入にも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するにあたり、ミーティングで自己評価について話し合う。また、前回の評価について、その後取り組み改善に努める。	○	ミーティングでサービス評価の意義を理解できるように努め、評価をさらに活かせるように取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や要望を受け、職員ミーティングに持ち帰り議題として話し合う。話し合った結果を、次回運営推進会議にて報告し意見を聞いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターによる「いきいき元気倶楽部」を同敷地内で開催していることで、いろいろな学習会を通じながらグループホームについても意識していただける環境にある。また、社会福祉協議会のボランティア担当者とも交流を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、「成年後見制度」「地域福祉権利擁護」について、研修や実際に対応してきたことで学ぶ機会を得ている。今後も必要に応じ制度について必要な情報を提供できる取り組みをしていきたい。	○	現状では管理者が対応しているが、職員に対しても権利擁護の必要性などを学べる機会をつくっていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員全員が学ぶ機会を持っていないが、言葉遣いから接し方についてミーティングにて勉強をしたり、入浴等で皮膚等をチェックし報告するなど事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法について職員全員が学べる機会を持てるように努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>運営者による個別面談にて職員意見を拾い上げていただいている。今後も引き続き継続を希望するとともに、ミーティング参加が減ってきておりミーティングによる施設運営の周知徹底が半減してしまっているため、ミーティング参加をお願いしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の都合で、職員の移動が優先されることなく、入居者にとって馴染みの管理者や職員による支援を受けていただけるよう努めている。新しい職員への引継ぎには十分な時間を費やしている。	○	法人運営による部署異動はあるものの、馴染みの職員体制で関わられるように勤めていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームに関わらず法人全体の職員に対して、研修に参加できるよう研修担当者が配置されている。	○	希望する研修に参加できるように、研修担当者 と打ち合わせていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか同業者と交流する機会がもてなかったため、愛知県認知症グループホーム連絡協議会に加盟した。	○	愛知県グループホーム連絡協議会が開催する研修会に職員を出席させ、他の事業所との連絡体制をつくれる機会を増やしていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の業務上介護の難しさ、個々との入居者への対応など、ストレスは溜まると思われる。100%の解消は難しいと思われるが、他施設の好事例などを積極的に取り入れていく。	○	休憩時間について、職員が利用者と離れ一息入 れることができる「休憩、場所の確保」を設け れるように取り組んでいく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、介護職員に過度の負担がかからないように定期的な「公休」「有休」を取れるように努めながら、勤務状況を把握している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者が安心してサービスを利用することができるように、事前に面接をし、現在の生活状況から苦しんでいること・困っていることの把握や、今までの生活歴や馴染みの暮らしから楽しい思い出や体験話、得意なこと等を本人自身から聴くことで、安心感を持ってもらい信頼関係を築けるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者の家族が安心してサービスを利用することができるように、相談の段階から困っていること・不安なこと等を聴き、事前面接時にもお話を聴くことで、より具体的な状況等を把握することで、信頼関係を築けるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者とそのご家族からの相談時に、できることについてはすぐに実行し、できないことについては、相談に来た人のニーズに合った他の機関と連携をしながら課題解決に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同施設に併設しているデイサービスを入居前に利用することで施設の雰囲気、職員や他の入居者との人間関係を築くことに努めている。また、実際に入居する前に「お試し期間」も設けグループホームの雰囲気を知ってもらうことができるように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫が得意な方には針仕事をお願いするなど役割をもってもらったり、畑仕事経験者には畑について聞くなど個人の生活感を尊重している。また、調理・掃除・工作など得意、不得意について把握し、それぞれの楽しさや喜びを引き出せるように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、いろいろな出来事や情報を伝えながら、楽しいこと喜ばしいことには一緒に微笑んだり、体力的・精神的に苦しいことには一緒に悩み解決の糸口を探している。また、こちらから伝えるだけでなく家族からの要望等も積極的に聞いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会が少ない家族には面会を呼びかけたり、お便りに入居者の活動写真を掲載することで、グループホームでの生活状況を知ってもらい意識していただけるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出に取り組んでおり、団体で行く遠足等とは違った外出になっており、入居者個人だけが希望する場所に行けるように努めている。同敷地内で地域包括支援センターが行う「いきいき元気倶楽部」に参加される方で、参加後、馴染みの方が面会に来ていただいたりと、遠方の方でも足を運びやすい環境にある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同一地域（町内）に生活されてきた方々とはいえ、それぞれの性格や今までの生活の違いもあるため、利用者同士の関係把握に努めながら、利用者同士が役割を分担しながら支え合うことができるような機会をつくっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約関係が終了した場合であっても、定期的な訪問や家族との電話連絡等を行い状況把握に努め、新たな対応策を一緒に考えていった。	○	契約関係が「お亡くなりになる」等の理由の場合であっても残された家族との関係を大切にし、地域活動や交流を通じて継続的に関わられるよう努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間でケアプランに対しての意見交換、ミーティングでの話し合いなどで全員が共通した内容の把握に努めている。希望や意向を把握するにはコミュニケーションから情報が得られやすく、外出時やお部屋での自然な会話から特に情報が得られやすい。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に生活歴や馴染みの暮らし方を把握するとともに、ケアプラン「センター方式」のアセスメントを使用することでより具体的に把握することができ、本人や家族等からの情報把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は、入居者の生活リズムを把握しており、そのかわりの中で、「できること」「できないこと」を把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、一人ひとりの意向やニーズを考えながら作成するとともに、職員間でケアプランに対しての意見交換を行いながら進めている。また、「援助サービス計画書」を家族へお送りし意見等をいただきながら介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間だけでなく、現状に即した介護計画の見直しも行っている。職員間のケアプランに対しての意見交換や、日常の業務報告内でも情報交換し、本人や家族の面会時に話し合うように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、ケース記録・ケアプラン記録・業務日誌、独自の工夫を入れて日々の様子を記入し情報を共有している。この記録類は、介護計画の見直し時の一つの材料としても使用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同施設に併設しているデイサービスと交流を行いながら、地域の顔見知りの利用者や以前デイサービスを利用していた際にお友達になった方々といつでも交流できる機会を設けている。施設嘱託医としてお願いしている医療機関はあるが、従前に通われていた主治医を希望される方への対応もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアには、施設行事や地域包括支援センターが行う「いきいき元気倶楽部」にて施設の存在を知っていただく機会を設け、小学校や児童館との交流を密にすることで子ども達の家族にも意識していただけるようになり、多くの協力を経て地域の方々に支えられている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅で生活されていた時の担当ケアマネジャーの面会等により、在宅で生活されていた時とグループホームの生活との比較などを教えていただいている。児童館との交流が盛んで、子どもの癒しの力を取入れた支援も行えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例について、地域包括支援センターと協働して行うことができている。また、地域包括支援センターの保健師に運営推進会議に参加していただいたり、地域包括支援センターが開催する「いきいき元気倶楽部」が同敷地内にて行われる為、センター職員や講師、地域住民との交流も多い		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携嘱託医への受診希望者、長年の主治医への受診希望者というように希望医師への受診対応を行っている。また、問題点等あれば家族へ報告し情報交換を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関することや投薬による症状について、内科嘱託医とは別に精神科へ受診し医師へ相談でき適切な治療を受けられる環境にある。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設デイサービスの看護師の協力が得られる環境にあり、気軽に相談できる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には定期的なお見舞いを行うことで入居者の状態を把握し、担当医師や看護師とも今後の治療等について情報交換できるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	要介護度が重度化した場合に備え、早期からの話し合いを行いながら今後の生活環境について意見交換していく。その際、同法人特別養護老人ホームへの入所希望等の意見も参考にしながら、関係者等と協議していく。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、アルツハイマー病の進行により心身ともに重度化している方がみえる。ミーティングでの職員間の話し合いや、法人運営会議での他部署との話し合いをすることで、グループホーム内だけでなく法人全体でのチーム支援に取り組み始めている。	○	重度化や終末期に向けた仕組みをグループホームはじめ同法人他部署の協力が得られる体制作りを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームへ入居される際には顔見知りの関係を築くように努め、退居される際には相談援助の一環として、本人、家族をはじめ主治医や関連施設等と情報交換を行いながら進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや研修に参加することで、個人のプライバシーを尊重しながら言葉かけの大切や重要さを再認識し、記録等への情報管理も徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	家事参加や個別外出など、入居者の希望、関心、嗜好を確認しながら、日常的に本人が選択し活動しやすい環境をつくるように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な生活リズムやペースについて、その人の体調等に配慮しながら、できる限りの個別性のある支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の美容店の協力で定期的に施設内で髪をカットしたり、希望する美容院でカットできるように努めている。また、毛染めは本人からの依頼やご家族からの依頼で職員が入居者と楽しく行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、準備に片付け、メニューの希望等入居者と楽しく、それぞれができる事を選択しながら楽しく行えている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者一人ひとりの嗜好を把握し食事内容にも対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンや排泄についての問題等について把握し、本人が行きたいときにトイレに行ける援助を行っている。また、リハビリパンツから下着へと日常生活を気持ち良く生活する支援に努めている。パッドについても本人の排泄状況に合わせたものを使用している。病状の進行で夜間のみオムツを使用しているが、日中はトイレで排泄できるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に合わせて毎日入浴している。また、状態によっては1階のリフト浴（座浴）を使用している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できる限り日中に活動していただけるように支援し、一人ひとり生活リズムに合わせたお昼寝や適時休息が出来るように努めながら、夜間での安眠ができるように取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ミーティングや記録、ケアプラン等を通じて、一人ひとりの入居者がどのようなことが得意・興味があるかを把握し、日常生活の中で発揮できるような環境整備に支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理依頼をされている入居者以外の方で、ご自身の財布を所持し金銭を持っている方もいる。また、欲しい物があれば所持金額から購入できる物をご自分で買う支援や通院時の支払い支援などを行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、畑、散歩、日向ぼっこ、喫茶店、なじみのある場所、季節を感じれる場所、入居者の希望する場所等の外出支援を行っている。また、身体機能的に長距離の移動が必要な場合は、車椅子等を活用するなど配慮することで積極的な外出を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者9名で遠足に出かける団体外出支援や、個別で希望する場所への外出支援に加え、家族とも出かけられる外出支援も行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・お友達からの電話、季節のお便り（年賀、残暑見舞い等）のやり取りができるように支援している。また、電話をする場合は他の人に会話が聞こえないようにお部屋で電話できるよう携帯電話を使用いただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は訪問者に対していつも笑顔で迎え、訪問者と入居者とが居心地よく過ごせるようにしている。また、家族の面会時には最近の出来事等をお話できる関係作りも積極的に行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束をはじめ、精神的拘束も行わないように、ミーティング等で拘束をしないケアについて話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>職員は、鍵をかけない暮らしのあり方についてミーティング等で話し合い、日中玄関施錠をしない生活に努めている。また、併設施設のデイサービス職員とも協力し合って、職員全員で見守るように心がけ、外へ行かれる雰囲気を感じた時は、職員はさりげなく寄り添って散歩をするなど、日中できる限り穏やかに過ごせるように心がけている。</p>		
67	<p>生活の中心となる食堂を囲むように各お部屋があり、入居者のプライバシーに配慮しつつ全体を見守ることができる。夜間については、3時間おきに様子を見ており、24時間安心して過ごすことができるように支援している。</p>		
68	<p>昼間と夜間、入居者の状況と職員の配置状況によって保管・管理方法の配慮を行い、入居者にとって危険な物品について把握しながら保管・管理を行っている。また、危険だからといって遠ざけるだけでなく、職員が見守ることで入居者が持っている能力を活かせるように支援している。</p>		
69	<p>事故防止の知識を学ぶとともに、日頃の記録等から一人ひとりの行動への予測に心がけ、職員全員が情報を共有することで起こりうる危険について、それを未然に防ぐ取り組みを行っている。</p>		
70	<p>救急救命法の研修を地元消防署の協力のもと行われている。</p>	○	<p>常勤の職員については救急救命の講習会を受けているが、現在のところ、全パート職員までには行なっていないので、今後は新しいスタッフも含め全職員が参加できるように消防署の開催時間も含め働きかけていきたい。</p>
71	<p>年2回の避難訓練の実施に、災害時に備えた非常用食料・備品等の確保をしている。また、運営推進会議にて、地域の区長等へ避難・救助体制等について地域との協力体制が整えられるように議題として話し合っている。</p>	○	<p>グループホームだけの問題として取り上げるのではなく、併設しているデイサービスとの協力体制、法人全体としての議題としても災害対策について協議していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	職員は、一人ひとりに起こり得るリスクについてできる限り把握しており、家族等に対して面会時や電話で必要な説明をしたり意見を求められた場合返答できるようにしている。また、ケアプランでも状況や状態をお知らせし家族からの意見をいただきながら対応策に反映している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的な記録については、小さな事柄でも記録に残し情報を共有している。また、変化があったときには、管理者に報告するとともに医療機関につなげており、医療機関受診後の記録も残し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの服薬条件などについて情報を共有しながら、飲み合わせにも注意している。また、誤飲や飲み忘れがないように管理をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、排泄、水分、日中の活動状況について管理しており、自然排便を促す工夫を個別にしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを個々に行っていただきながら、口腔状態や力に応じた支援を行っている。また、夜間入れ歯の管理ができない方は、入れ歯消毒を含めた管理支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好を聞きながら献立に活かし、検食簿にて食事内容について記録している。また、入居者の食事・水分摂取量等についても、個別にチェックしている。水分摂取量が少ない時には、水分補給を促すなど配慮している。体重測定を月1回、又は必要な方には月2回行いながら体重増減を把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルを作成し、予防と早期対応について取り決めている。冬期には毎年、入居者・職員にはインフルエンザの予防接種を受けられるように往診を依頼し対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の衛生管理は徹底している。食材料について消費期限などの日付や使い切らなかつた残りの分量の把握を行い、計画的に消費するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	タイルや壁の色、照明から違和感や威圧感は感じられず、玄関先の看板を木材を使用するなど温かみを出すようにしている。また、家庭的で落ち着いた雰囲気を出すことができるように緑の濃い観葉植物を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のお部屋から、ホールを眺めると温かいライトアップと日の光が入り込み明るい環境にある。2つのソファ空間、畳部屋や食堂が配置され、一人でも入居者同士でも自由に過ごすことができる。ホールには、季節感を表した作品を入居者と作成し展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所のソファ空間と畳部屋があり、共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で過ごすことができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談、入居の際には、できる限り長年愛用している物を持ってきていただけるようにお話している。しかし、持ち込まれる方はまちまちで、全入居者が愛着のある物を持ち込まれているわけではなく、家族の都合により新しい物を持ち込まれるケースが多い。	○	タンス等の入れ物について新しい物が多い、自宅で使用されていた愛着のある物（小さな物でも）を持ち込んでいただけるように、引き続きお願いをする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、入居者と一緒に、お部屋の扉や窓を開け空気の入れ換えをしている。冷暖房の調節は毎日の気候に合わせてその都度行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの太さ、キッチンの高さ等、入居者の自立を促すことができるように環境整備に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	色彩のかけ離れた物を配置しないように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスから眺められる場所に畑があり、天候や体調に注意しながら、畑耕し、水まき、野菜の収穫等を楽しんでいる。また、入居者で畑仕事の経験者や家庭菜園経験者から教えていただける環境もあり、それぞれの役割を活かしながら活動している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)